

## 第三者評価結果（乳児院）

### 1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育てている。	a
② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	a
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>乳幼児に対しては、入所から退所まで一貫した担当制をとり、母親が面会にきても、顔見知りの時期で泣き出す場合には、保育士と一緒に入り母親と子どもの関係作りに努めている。職員一人ひとりが子どものことを思い、担当児に対して抱っこやおんぶ、語り掛けなどを日頃から心がけ、個々の状態に応じた関係作りをしている。</p> <p>日々の生活リズムは、子どもの発達や気持ちに沿い、おもちゃは丈夫でぬくもりがある木製のものを使い、子どもとの愛着形成の構築に努めている。</p> <p>季節感のある行事、行事に合った食事の取り入れを実施している。出来る限り1対1の保育を心がけてはいるが、人員配置上2人の子どもを1人で担当するケースもあり、今後検討の課題である。</p>	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	b
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
(3) 衣生活	
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	b
(4) 睡眠環境等	
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	b
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	b
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
(5) 発達段階に応じた支援	
① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	b
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>「子どもを抱きながらアイコンタクトとスキンシップを十分に図り、ゆったりと授乳する」ことを基本にされているが、今年度は乳児の入所が多く、職員配置により人手が薄くなる場合もある。特に夜間など職員配置上、1人の配置にせざるを得ないケースもあることから、何らかの対策が必要と思われる。</p> <p>離乳食から幼児食まで栄養士による管理がされ、担当と栄養士が話し合いながら子どものペースに合わせ食事をしている。「時間をかけてゆっくりと」の部分では、職員不足がある中、担当と栄養士が話し合いながら子どものリズムに合わせ、授乳の量や時間を考慮するなど工夫している。</p> <p>食物アレルギーのある子どもの食事に関しては、専門的な知識を持つ職員や場合によっては嘱託医も含め話し合い、一日一食は栄養士もしくは調理員が入り子どもの体調や様子を管理している。又、近くに専門医が複数おり、万が一アレルギー反応が出ても、診療時間内に診察が可能なように食事時間を合わせるなど、専門職ならではの気付きに基づき臨機応変に提供されている。</p> <p>衣類係を設置し、洗濯などを頻繁に行っているが、乳幼児は毎日着替える回数が頻繁にあり衣服が不足しがちなため衣服の適切な管理保管が必要と思われる。</p> <p>睡眠では、安心して心地よい眠りにつけるよう絵本の読み聞かせや、CD（オルゴール）を掛ける等一人ひとりの子に応じ寝かしつける（添い寝、子守歌を歌う、抱っこや身体をさする）工夫をしている。感染症対応の為紙おむつが妥当と判断し、安全には最善の努力をされているが、経済的理由や集団生活のため不快感を伴わない紙おむつの交換に苦慮されているので、職員の負担軽減を図りながら個別対応が行えるようさらなる工夫に期待したい。</p> <p>誕生日を迎えた子には、担当がその子に適した玩具を提供している他、出来る限り小グループを作り、子ども同士で密に遊べる状況を作るなどしている。発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるような学習会や研修会に職員が参加し遊びのバリエーションを増やしている。</p>	

(6) 健康と安全	第三者 評価結果
① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
③ 感染症などへの予防策を講じている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>職員全体で子どもの健康管理に努め、看護師を中心に異常所見が見られた場合には、医療機関につなぐなど子どもの発達支援が受けやすい連絡体制をとっている。定期通院(リハビリ等)が必要に応じて行われ、薬等は子どもの命に関わる大事な事柄であることから、看護師等で検討しながら子どもの命を守っている。</p> <p>感染症予防や蔓延防止に関しては、リスクマネジメント委員会を設け検討しているが、夜勤時の病児も含めて職員1名で対応するため、日中隔離しても感染症防止ができないので今後見直しをされたい。</p>	

(7) 心理的ケア	第三者 評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>臨床心理士が定期的に心理報告会を開催し、発達支援計画も、生活場面でなかなか見えてこない子どもの姿を中心にアセスメントが作成されている。</p> <p>家庭引き取りが子どもの福祉に欠かせないものである考えから、家族への支援は電話や面会時に保護者の話をよく聞き、子どもの成長の様子を伝えながら、参加型の心理支援報告をされ詳細に記録されている。</p>	

(8) 継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	a
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>措置変更や受け入れに関しては、児童相談所の決定によるため、施設や職員が十分な準備期間を取れないジレンマを感じる事が多いが、決定後にはソーシャルワーカーが主になり、施設の心理士・ファミリーソーシャルワーカー・看護師などが連携し施設を退所した後まで支援している。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>ファミリーソーシャルワーカーを中心に児童相談所など関係機関と連携を密にして親子関係再構築の支援がなされている。親子の関係性についてアセスメントを実施し、保護者の養育スキル向上と家庭関係の再構築に向け施設として出来る範囲の支援をしている。又個別のケースに合わせて施設内の訓練室での施設宿泊・外出などが慎重に実施されている。常に課題の多い親子関係の解決と子どもにとっての最善の方策を模索しながら日夜取り組んでいる。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもの養育・支援に関する各種の記録は所定の書式で記録し、個別ケースごとに整理されている。他の乳児院で導入している処遇記録ソフトを導入してパソコンによる記録に統一する取り組みに着手するなど、適切な記録に積極的に取り組まれている。</p> <p>なお、ケースごとに年2回アセスメントも実施されており、今後はその実践を「自立支援計画」の策定等に連動させ、確立されることを期待する。</p>	

### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
(2) 保護者の意向への配慮	
① 保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>基本事項は施設の運営規程に明示するとともに組織全体で取り組まれている。保護者とは個別面談を中心に養育上の不安や意向等を聴き取るなど、きめ細かく対応されている。</p> <p>また、生活向上委員会を立ち上げ、全国乳児福祉協議会が作成した「乳児院倫理綱領」等を参考に権利擁護等に関するマニュアル化にも取り組み中であり、その成果に期待する。</p>	

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
① 保護者が相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	c
(5) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>インターネットのホームページやカラー版パンフレットで分かりやすく説明されている。担当職員を中心に相談にもきめ細かく対応されている。「意見箱」を設置し、これに係る説明も掲示されている。なお、保護者意見等への対応マニュアルの作成や生活向上委員会で文書化を準備中の虐待防止に係る今後の取り組みに期待する。</p>	

## 5 事故防止と安全対策

	第三者 評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	b
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長・主任・看護師等で構成するリスクマネジメント委員会で事故防止に取り組まれている。ヒヤリハットを記録して職員間で情報を共有するなど事故防止に活用されている。災害時等には隣接の児童養護施設の支援を受ける体制が確立している。また、怪我等の緊急時対応では病院等との連携も確保されている。なお、自然災害に備えた訓練や備蓄品の更新等については今後も地道な取り組みを期待する。</p>	

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 関係機関との連絡方法等が明示され、職員に周知されている。児童相談所とは年2回の情報交換を行うなど、連携が図られている。福祉等の専門分野のアドバイザーを招いて、定期的にケース会議を開催するなどの先駆的な取り組みも行われている。ボランティアの受け入れでは看護師経験者による養育援助や音楽療法など多様な受け入れが行われている。地域支援は隣接する子ども家庭支援センター等を中心に行われており、今後も側面的な協力に期待する。		

## 7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 職員の教育・研修に関する基本姿勢は、法人・施設で具体化したものを明記されたい。その上、教育・研修計画は、全体・中堅・幹部職員と区分して策定され、質の向上に取り組まれたい。外部研修での取り組みは職員の希望等で実施されているが、研修報告後の評価をし、施設で生かす取り組みに欠けている。スーパービジョンの体制は、施設長・基幹的職員・心理療法担当・ファミリーソーシャルワーカー等でいつでも相談できる体制は確立されているが、全職員に浸透されていないのが課題といえる。		

## 8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④	運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
⑤	事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            児童憲章に則った理念・基本方針であり、パンフレットに記載されている。職員への周知と理解を深める取り組みを再考されたい。保護者に対してパンフレットは配布されているが、事業計画等の配布はなされていない。保護者のみならず地域に向けて積極的に発信されることを期待する。今後のビジョンでは、法人としての展望があり、土地取得後の新しい施設での地域福祉の取り組みに対し地域の期待は大きいので、施設での組織体制や人材の確保・運営全般を網羅した中・長期計画を策定され、事業計画等に反映し、職員からの提言も受け入れられたい。</p>		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	c
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③	外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)            施設長として、年度当初「職務分担分掌表」を明文化されているが、関連する書類が複数あるので、統合化するなど職務分担分掌表を工夫され再考を期待する。「養育・支援など提供する専門性や質の向上」の取り組みは確認できた。この施設として守るべき法律のリスト化がされていないので、作成されたい。現在「自立支援計画」等に着手されており、職員の質の向上に繋がることに効果を期待する。ただ、職員との意思疎通を再度確認され、確実に実施されたい。施設長として、県内外の会議等に出て乳児院の動向は把握されている。外部監査は、実施には至っていない状況である。</p>		

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>人事体制の計画は、法人での取り組みと思われるが、当施設でも具体的な計画づくりを期待したい。人事考課は実施されておらず、法人での取り組みに期待する。職員の就業状況や意向は「施設長面談」で把握されている。職員の福利厚生は、福利厚生センター・県共済会等に加え職員は利用している。実習者の受け入れはしており、当日大学生が実習していた。マニュアルがあり福祉人材の育成に注力されていることが伺える。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>標準的な実施方法は、明文化されているが、Plan (計画)、Do (行動)、Check (確認)、Action (改善・処置) のPDCAのサイクル手法を取り入れ、さらに強化されたい。各部署での定期的な検証・見直しと、効率化を図ることにより「質の向上」に繋がると思われる。毎年の自己評価では、理念・基本方針を柱に、日常業務の見直し、詳細で膨大な業務量の「合理化・スリム化」を行い、評価と課題改善に結びつく「標準的な実施方法」等、定型化への検討を期待する。</p>	